

令和3年度 摂食指導法研修会①

日時：令和3年5月12日（水）15：45～16：45

講師：福島県総合療育センター耳鼻咽喉科医師 鈴木 雪恵 先生

演題：「嚥下のメカニズムと摂食嚥下障害への対応」

「食べる動きに関する咽頭・喉頭のメカニズムを知る。」「摂食指導の基礎的な知識を得る。」を目的に、鈴木雪恵先生のご講義をいただきました。今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため新転入職員のみを対象に少人数で行いましたが、イラストや写真などが数多く盛り込まれた資料を基に貴重なお話を聞くことができ、大変有意義な研修会となりました。

＜講義の内容＞

- 摂食嚥下のしくみについて
- 摂食嚥下障害の症状とリスクについて（誤嚥性肺炎、窒息など）
- 摂食嚥下障害に対する具体的な対応
 - ・栄養摂取の方法（経管、胃ろうなど）
 - ・咀嚼障害への対応
 - 食形態の調整、トロミ調整食品の使用、栄養補助食品の使用、姿勢の調整
 - 食具の工夫、嚥下方法の指導、嚥下体操、口腔ケア、外科的治療 など
- 本校の食形態と再調理時の工夫



＜研修の様子＞



＜講師の鈴木雪恵先生＞



＜食具やトロミ剤等の展示＞

＜参加者の感想から＞

- ・食材の様々な工夫で、少しでも口から食べること、とても大切なのだと感じました。
- ・同じトロミでも用途によって性質も異なるということがわかりました。今までトロミの違いまではわからずにいたので参考になりました。
- ・誤嚥の起こるメカニズムがわかりました。嚥下障害に対応するのに単に水分を増やすのではなくトロミが重要だということがわかりました。
- ・誤嚥の危険性について改めて知ることができました。誤嚥を防ぐために姿勢の調整や食具の工夫、口腔ケアについての指導や支援をしっかりと行っていきたいと思いました。食具もたくさん見ることができ、イメージが持てました。
- ・実際の写真や図、イラストも含めわかりやすい説明で大変良かったです。細菌が原因となる誤嚥性肺炎が一番多いということも知ることができたので、さらに具体的な事例をもう少し把握していきたいと思いました。
- ・様々な食具を実際に見ることができたのがとても良かったです。